

私たちににとって最も身近なクルマといえは、まず乗用車が思いつくだろう。また、多くの人たちを運ぶバスや大量の荷物を運搬するトラックなどの大型車が、生活に密着している。それら以外では、暮らしの安全を見張るパトカー、急な病気やけが人を運ぶ救急車などは、なくてはならない存在である。

古来より人間は、馬や牛などの動物を使うことによって、多くの荷物を運んだり楽に移動できることを学んでいた。その中でも馬車は、自動車の前身といわれている。紀元前2000年には、すでに青銅で組み立てられた馬車が製造されていた。それから人類は人工の馬を作るため、さまざまな取り組みを開始したのである。これが後に、自動車を生み出す原点となった。

自動車の歴史は、18世紀に発明された蒸気機関によって幕を開ける。世界で最初の自動車は、フランス軍の技術員が製作した。大きなボイラーをフロントに備えた蒸気自動車は、大砲を運ぶことが目的であった。時速9kmで走行できたが、あまりの重さにコントロールが不能となって、試運転中に壁に激突した。世界初のクルマは、世界で初めて交通事故を起こしたクルマでもある。

19世紀の後半は、ガソリンや電気を利用した動力機関が次々と発明された。それらのうち、最も効率の良いガソリンエンジンは、世界中の技術者から注目を集めていた。開発をリードしたのは、ドイツの自動車メーカーである。いち早く2サイクルエンジンの開発に成功し、ガソリン車の第1号を生み出した。この新しい動力機関を自動車に応用するため、イギリスやアメリカなどの国々は、激しい開発競争を繰り広げることになる。

当時の自動車は、非常に高価であり、貴族や特権階級など一部の人がしか購入できなかった。だが、第一次世界大戦や大恐慌などで多くの貴族が没落すると、高級車の多くは自然に淘汰されていった。一方で、生産技術が成熟し、自動車は大量に生産されるようになった。これにより、安価な大衆車が発売され、先進国を中心として、自動車は急速に生活の中に入り込んでいった。

練習問題